

平成20年12月9日公表

平成20年産水稻の収穫量（大分県）

10a 当たり収量は519kg(作況指数103)
収穫量（子実用）は12万8,700 t

【調査結果の概要】

大分県における平成20年産水稻の作柄は、7月から8月中旬にかけて高温多照で経過したことや台風の接近がなかったことから、10a当たり収量は519kg（作況指数103）、収穫量（子実用）は12万8,700t（前年産対比101%）となりました。

【解説】

田植最盛期は、前年産並みの6月11日となりました。

生育は、7月から8月中旬が高温多照で経過したため、分けつが促進され1株当たり穂数が多くなりました。

1m²当たり全もみ数は、1穂当たりもみ数が前年並みとなったものの、1株当たり穂数が多くなったため、平年に比べてやや多くなりました。

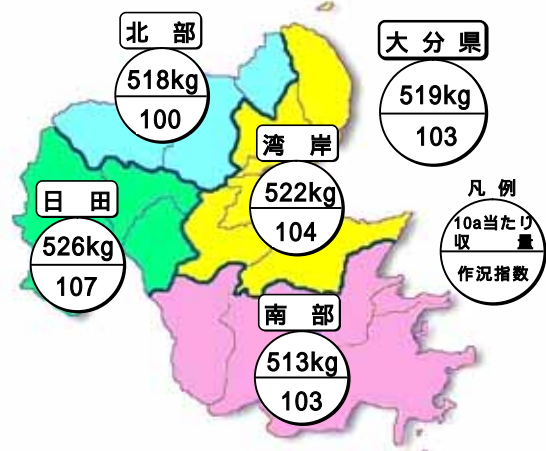
出穂最盛期は前年産に比べて2日遅く、前年並みの8月24日となりました。

登熟（実入り）は、9月中・下旬に日照時間が減少したものの、10月以降は回復したため、おおむね前年並みとなりました。

刈取りは、秋雨前線の影響により湿潤状態等で刈取りが進まないほ場もあり、最盛期は平年に比べて2日、前年産に比べて5日遅い10月16日となりました。

地帯別の作柄は、早生種で倒伏や穂発芽が見られたものの、もみ数が多く登熟（実入り）が良好であった日田で526kg（作況指数107）、日照不足等の影響は見られたものの、もみ数が多く被害が比較的少なかった湾岸では522kg（同104）、もみ数が多かったものの、いもち病・紋枯病により登熟（実入り）がやや低下した南部では513kg（同103）、いもち病、紋枯病の被害程度の大きいほ場が見られたものの、もみ数、登熟（実入り）が前年並みとなった北部では518kg（同100）となりました。

水稻の作柄表示地帯別
10a当たり収量及び作況指数



区分	作柄表示地帯に包括される市町村
北部	中津市 豊後高田市 宇佐市
湾岸	大分市 別府市 杵築市 由布市 国東市 姫島村 日出町
南部	佐伯市 臼杵市 津久見市 竹田市 豊後大野市
日田	日田市 九重町 玖珠町

作況指数とは、10a 当たり前年収量に対する10a 当たり収量の比率です。

この資料は九州農政局ホームページ大分農政事務所の「大分の統計情報」

【http://www.maff.go.jp/kyusyu/oita/toukei_jouhou/toukei_sokuho.html】でご覧になれます。
この統計調査における調査目的、調査対象などの調査仕様は、【調査の仕様】9Pに掲載しています。

1 平成20年産水稻の作柄表示地帯別作付面積及び収穫量

区 分	作付面積 (子実用)			10a 当たり 収量	収穫量 (子実用)			参 考			
	前年産との比較				= ×	前年産との比較		主食用 作付面積	収穫量 (主食用) = ×	10a 当たり 平年収量	作 況 指 数 = /
	対差	対比	対差			対比					
	ha	ha	%	kg	t	t	%	ha	t	kg	
大分県	24 800	1 100	96	519	128 700	1000	101	24 800	128 700	503	103
北部	7 550	170	98	518	39 100	300	99	7 550	39 100	517	100
湾岸	7 240	420	95	522	37 800	200	101	7 230	37 800	500	104
南部	7 040	450	94	513	36 100	500	99	7 040	36 100	498	103
日田	2 980	20	99	526	15 700	1800	113	2 970	15 600	490	107

- 注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り用の面積を除いた面積です。
 2 主食用作付面積とは、水稻作付面積（青刈り面積を含む）から、加工用米、新規需要米用等の面積を除いた面積です。
 3 10a当たり平年収量とは、水稻の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいいます。
 4 陸稲の収穫量は、作付面積が1ha未満のため、掲載を省略しました。

2 平成20年産水稻の主な被害面積及び被害量

被害種類	被害面積	被害量	構 成 比
			ha
総 数	65 000	9 250	100
うち 気 象 被 害	19 900	3 160	34
風 水 害	1 460	608	7
高 温 障 害	490	50	0
日 照 不 足	17 900	2 500	27
うち 病 害	33 500	4 760	52
い も ち 病	8 990	1 880	20
紋 枯 病	10 200	2 060	23
そ の 他	14 300	824	9
うち 虫 害	10 400	825	9
ウ ン カ	3	0	0
カ メ ム シ	1 040	453	5
そ の 他	9 320	372	4
うち そ の 他	1 200	500	5

被害面積の総数は、被害種類別面積の延べ数で、2種類以上の被害を受けた場合は重複して計上しています。

病害のその他は、^{ないえいかつべん}内穎褐変病等です。

虫害のその他は、コブノメイガ等です。

被害面積とは、農作物に損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合にとれ得ると見込まれる収量（被害なかりせば収量）から減収した面積をいいます。

被害量とは、農作物の栽培が開始されてから収納されるまでの期間に、災害等によって損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合にとれ得ると見込まれる収量（被害なかりせば収量）より減収した量をいいます。

【関連するデータ】

参考1 平成20年産水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況及び10a当たり収量内訳
(作柄表示地帯別)

本調査では、飯用に供し得る玄米の全量を把握することを目的としていることから、収量基準は、農産物規格規程三等の品位（整粒歩合45%）以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別された玄米の重量としています（参考6 参照）。
農家等が販売するために使用している選別ふるい目幅は、地域、品種等により異なるため、ふるい目幅の重量割合とふるい目幅別10a当たり収量を示すと次のとおりです。

単位 { 重量割合： %
平均対差： ポイント

区分	合計	ふるい目幅					
		2.00mm	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm
作柄表示地帯							
大分県							
重量割合	100.0	57.6	27.3	6.7	3.8	3.3	1.3
平均対差		4.0	2.2	1.2	0.5	0.0	0.1
北 部							
重量割合	100.0	64.3	22.8	5.5	3.5	2.7	1.2
平均対差		11.8	7.6	2.3	1.2	0.3	0.4
湾 岸							
重量割合	100.0	48.1	32.5	8.9	4.6	4.4	1.5
平均対差		4.9	2.0	1.4	0.8	0.3	0.4
南 部							
重量割合	100.0	56.0	28.5	6.6	4.1	3.2	1.6
平均対差		1.4	0.6	0.4	0.6	0.2	0.4
日 田							
重量割合	100.0	65.4	24.2	5.1	2.2	2.3	0.8
平均対差		1.1	2.1	0.4	0.5	0.0	0.1

単位：kg

区分	10a当たり 収 量 (1.7mm基準)	選別ふるい目幅別10a当たり収量					
		2.00mm	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm
作柄表示地帯							
大 分 県	519	299	441	475	495	512	519
北 部	518	333	451	480	498	512	518
湾 岸	522	251	421	467	491	514	522
南 部	513	287	434	467	488	505	513
日 田	526	344	471	498	510	522	526

- 注1： 平均対差に用いた平均値は、直近5カ年の重量割合の平均値です。
 注2： 選別ふるい目幅別10a当たり収量とは、表頭のふるい目幅を使用した際に得られる10a当たり収量のことです。
 注3： 台風等により未熟粒・被害粒の混入が多く農産物規格規程三等の品位に達しない場合は、再選別を行っており、その選別後の値を含んでいます。

参考2

水稻玄米のふるい目幅別重量分布状況累年データ（大分県）

単位：％

区 分	計	2.00mm以上	1.90mm	1.85mm	1.80mm	1.75mm	1.70mm
平.20年産	100.0	57.6	27.3	6.7	3.8	3.3	1.3
19年産	100.0	58.9	27.2	6.4	3.7	2.6	1.2
18年産	100.0	40.6	34.7	10.7	7.1	4.8	2.1
17年産	100.0	52.0	32.0	7.7	3.9	3.1	1.3
16年産	100.0	49.3	30.4	9.6	4.7	4.2	1.8

参考3

水稻の作柄表示地帯別生育期一覧表

作柄表示地帯	田 植 期				草丈の長 短	茎数の多 少	被害の多 少
	始 期	最盛期	終 期	最盛期の 平年遅速			
大 分 県	5 月 14日	6 月 11日	6 月 25日	1日遅い	平年並み	やや多い	やや少ない
北 部	5 月 20日	6 月 16日	6 月 28日	平年並み	平年並み	やや多い	平年並み
湾 岸	5 月 11日	6 月 15日	6 月 29日	平年並み	平年並み	多い	少ない
南 部	5 月 13日	6 月 6日	6 月 21日	2日遅い	平年並み	やや多い	やや少ない
日 田	5 月 7日	5 月 28日	6 月 16日	2日早い	やや短い	多い	少ない

作柄表示地帯	出 穂 期				穂揃いの良 否	穂数の多 少	1穂当たりもみ数の多少	全もみ数の多 少
	始 期	最盛期	終 期	最盛期の 平年遅速				
大 分 県	7 月 28日	8 月 24日	8 月 31日	平年並み	平年並み	やや多い	平年並み	やや多い
北 部	7 月 23日	8 月 26日	9 月 1日	平年並み	平年並み	やや多い	平年並み	平年並み
湾 岸	7 月 30日	8 月 26日	8 月 30日	平年並み	やや良	多い	やや少ない	やや多い
南 部	7 月 28日	8 月 21日	9 月 1日	平年並み	平年並み	やや多い	やや多い	多い
日 田	8 月 2日	8 月 16日	8 月 24日	1日遅い	やや良	多い	やや少ない	多い

作柄表示地帯	刈 取 期				登熟の良 否	稔実の良 否	粒肥大の良否	粒充実の良否
	始 期	最盛期	終 期	最盛期の 平年遅速				
大 分 県	9 月 15日	10 月 16日	10 月 26日	2日遅い	平年並み	平年並み	平年並み	やや良
北 部	9 月 15日	10 月 18日	10 月 27日	平年並み	平年並み	やや良	平年並み	平年並み
湾 岸	9 月 11日	10 月 16日	10 月 25日	1日遅い	平年並み	やや不良	平年並み	やや良
南 部	9 月 20日	10 月 16日	10 月 27日	3日遅い	やや不良	やや不良	やや不良	やや良
日 田	9 月 10日	10 月 7日	10 月 21日	4日遅い	良	やや良	平年並み	やや良

時期別の「始期」は面積割合が5%、「最盛期」は同50%、「終期」は同95%に達した期日です。
 「穂数の多少」は、1㎡当たりに出穂したすべての穂の数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
 「1穂当たりもみ数の多少」は、1穂についているすべてのもみの平均数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
 「全もみ数の多少」とは、1㎡当たりのすべてのもみ数が平年と比較して多いか少ないかを表しており、多い、やや多い、平年並み、やや少ない、少ないの5段階で表しています。
 「登熟の良否」とは、登熟（開花、受精から成熟期までのもみの肥大、充実）が平年と比較して良いか悪いかを表しており、良、やや良、平年並み、やや不良、不良の5段階で表しています。
 上記の平年比較とは、過年次の作況標本筆結果から作成した1㎡当たり穂数等の各収量構成要素の平年値との比較です。

多少(良否)	少ない(不良)	やや少ない(やや不良)	平年並み	やや多い(やや良)	多い(良)
対平年比	94%以下	95～98%	99～101%	102～105%	106%以上

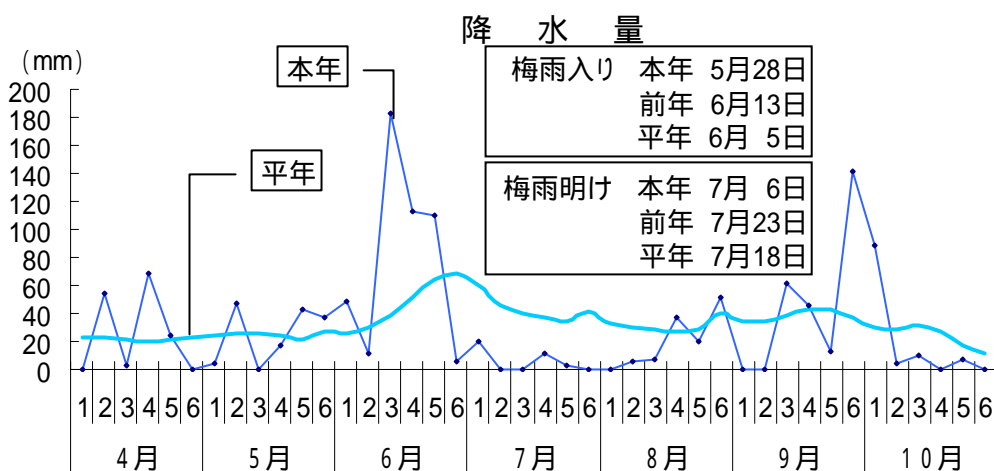
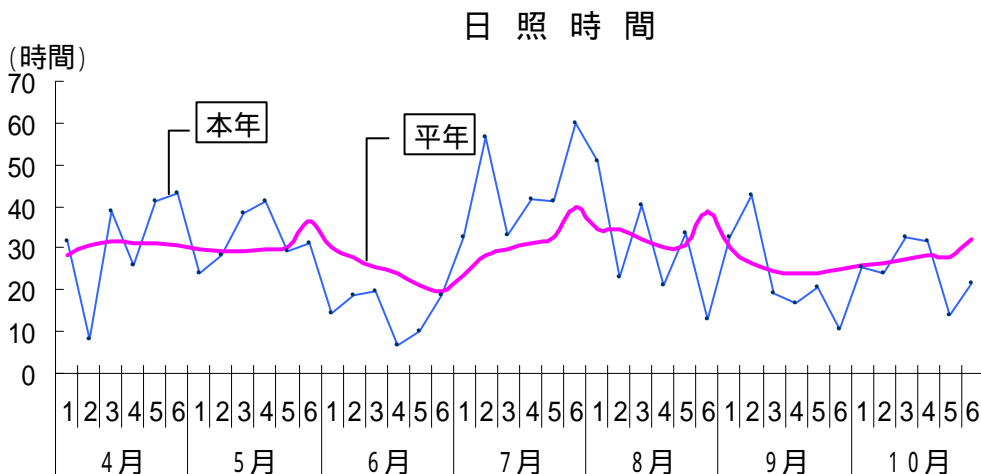
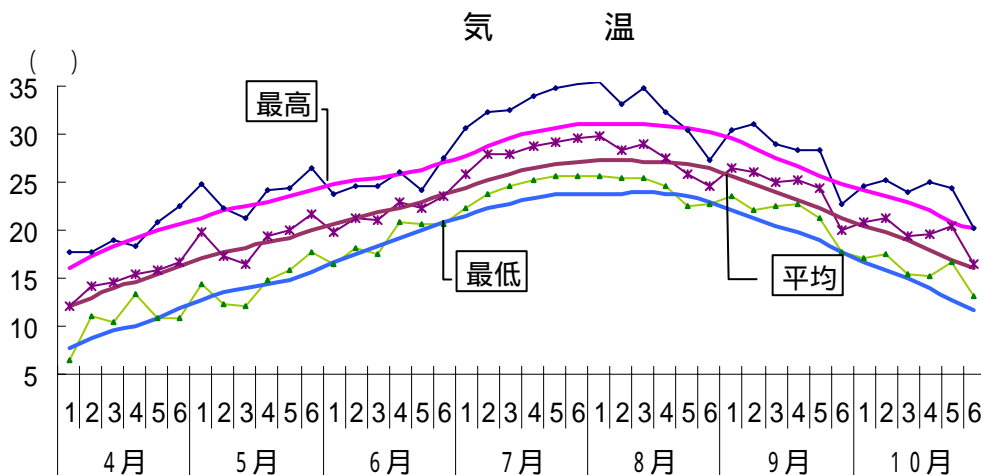
参考4

水稻の年次別推移（大分県）

年産	作付面積	10a当たり 収 量	収穫量	作況指数	10a当たり 平年収量	主な要因
	ha	kg	t		kg	
昭.53	41 100	472	194 000	107	440	
54	40 000	481	192 400	108	446	
55	38 700	357	138 200	79	452	異常低温、長雨
56	37 100	480	178 100	106	452	
57	37 000	421	155 800	92	458	日照不足
58	37 000	455	168 400	99	458	高温障害
59	37 300	490	182 800	107	458	
60	37 600	484	182 000	105	462	
61	37 000	482	178 300	103	466	
62	34 200	416	142 300	89	470	風水害、日照不足
63	33 400	468	156 300	100	470	風水害、日照不足
平.元	33 200	487	161 700	104	470	
2	32 700	461	150 700	98	472	水害、台風、高夜温
3	32 000	392	125 400	83	474	台風、天候不順
4	33 000	493	162 700	104	474	
5	33 800	367	124 000	77	474	冷夏長雨、台風
6	34 700	590	204 700	124	474	高温多照、少雨、干害
7	33 300	519	172 800	109	474	高温多照、少雨
8	30 800	492	151 500	104	474	
9	30 500	479	146 100	100	478	
10	28 200	499	140 700	104	478	
11	27 800	387	107 600	80	485	台風、日照不足
12	27 500	516	141 900	105	490	
13	26 800	512	137 200	104	490	
14	26 400	513	135 400	103	496	
15	26 100	485	126 600	97	498	長雨、日照不足
16	26 200	432	113 200	86	501	台風16,18,21,23号、日照不足、秋雨前線停滞
17	26 200	459	120 300	91	503	台風14号、高温障害(乳白)、ウンカ
18	26 200	395	103 500	79	503	日照不足、台風13号、潮風害、内穎褐変病
19	25 900	493	127 700	98	503	ウンカ、紋枯病

作付面積は、子実用です。

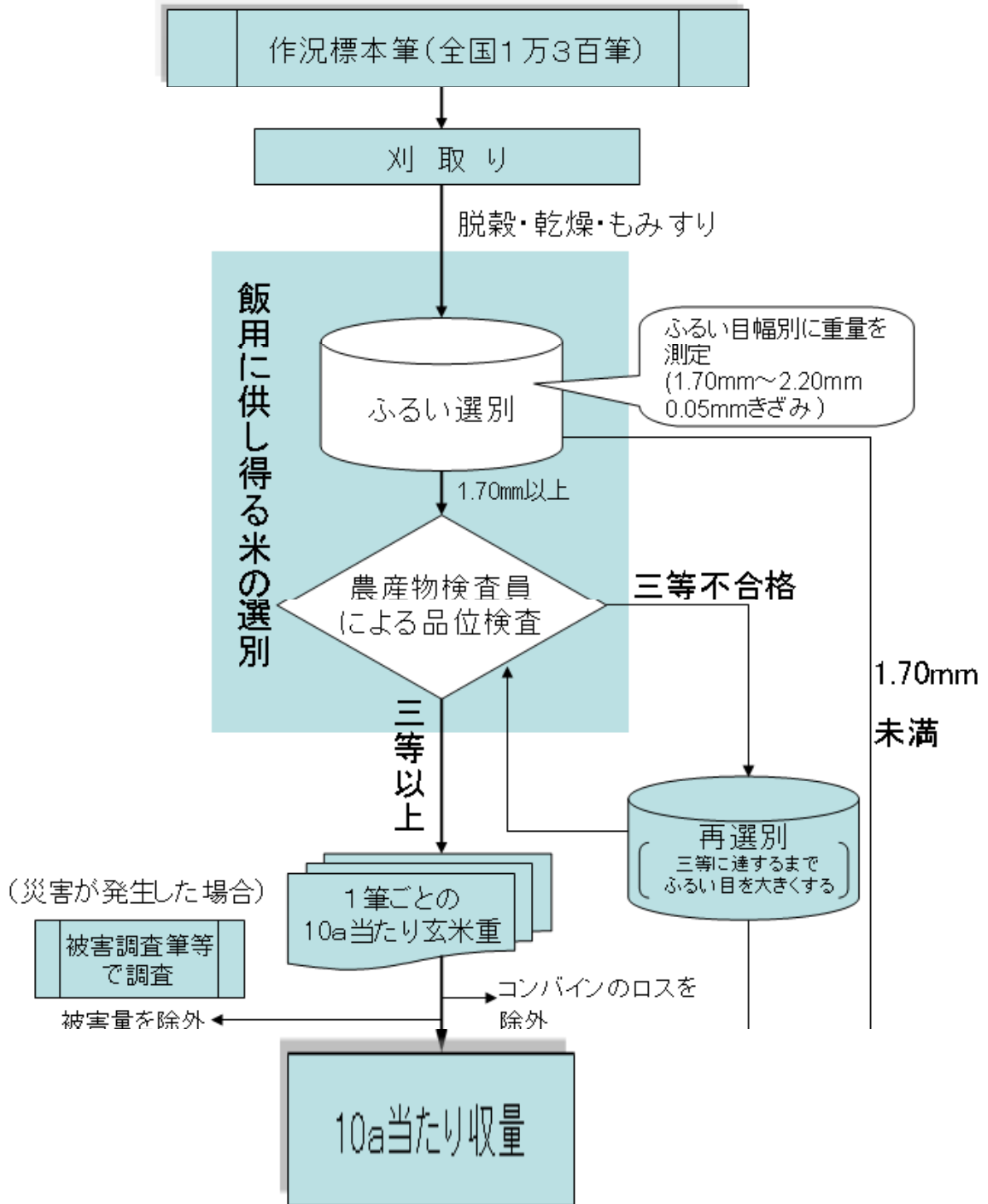
平成20年気象グラフ平年比較（大分市）



資料：大分地方気象台「アメダスデータ」

収穫量調査の流れ

収穫量調査は、飯用に供し得る米の全量を把握することを目的として、作況標本筆(参考7 参照)ごとに一定面積の稲を刈取り、農産物規格規程三等の品位(整粒歩合45%)以上に相当するよう、ふるい目幅1.70mm以上で選別を行い、その重さを計測しています(下図参照)。



作況標本筆^{ふいで}とは

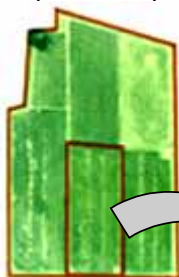
収穫量の実測調査の対象とした作況標本筆^{ふいで}(1枚のほ場を筆と呼びます。)は各都道府県の水稲の状況が把握できるように、標本理論に基づいて以下のように各地で選定し(全国で約1万300筆)、調査しています。

都道府県内の全耕地
(母集団)



都道府県ごとの耕地を、2haの区画に区切った単位区の集まり(調査母集団)として整理し、その中の水田を含むものから、無作為抽出法(人間の恣意を排したくじ引きの様な選び方)により「標本単位区」を選んでいきます。

標本単位区
(約2ha)



標本単位区の中から無作為に1枚の水田ほ場を選び、「作況標本筆」としています。

作況標本筆
(全国で約1万300筆)



各作況標本筆の対角線上の3ヶ所を実測調査箇所として、今回サンプル採取(坪刈り)を行いました。

【調査の仕様】

1 調査の目的

本調査は、作物統計調査の作付面積調査及び水稲調査の中の収穫量調査として実施し、水稲の作付面積、作柄状況、収穫量を明らかにすることにより、生産対策、需給調整、経営安定対策、技術指導等の農林水産行政推進のための資料とすることを目的としています。

2 調査の対象

大分県

3 調査期間

- (1) 作付面積調査：7月15日現在
- (2) 収穫量調査：収穫期

4 調査方法

- (1) 作付面積調査
調査は、標本単位区に対する職員及び統計調査員による実測調査並びに職員による巡回・見積りにより行いました。
- (2) 収穫量調査
調査は、作況標本筆、作況基準筆及び被害調査筆に対する職員による実測調査及び基準筆結果に基づく巡回・見積りにより行いました。

5 調査対象数

- (1) 作付面積調査
標本単位区：855単位区 巡回・見積り：18市町村
- (2) 収穫量調査
作況標本筆：185筆 作況基準筆：19筆 巡回・見積り：18市町村

6 調査事項

水稲の作付面積、は種期の遅速、田植期の遅速、活着の良否、草丈の長短、茎数の多少、穂数の多少、もみ数の多少等の生育状況、登熟状況、被害状況、耕種状況。

7 集計方法

- (1) 作付面積調査
対地標本実測調査結果及び巡回・見積り結果により取りまとめています。
- (2) 収穫量調査
調査事項について、作況標本筆調査結果を集計し、作況基準筆結果に基づく巡回・見積りにより補完して取りまとめています。

8 用語の解説

- (1) 青刈りとは、子実の生産以前に刈り取られるもので、飼肥料用などとして用いられるものです。
なお、青刈りには、稲発酵粗飼料（ホールクロップサイレージ）、わら専用稲等を含みます。
- (2) 作況指数とは、10a当たり平年収量に対する10a当たり収量の比率です。
- (3) 10a当たり平年収量とは、水稲の栽培を開始する以前に、その年の気象の推移や被害の発生状況などを平年並みとみなし、最近の栽培技術の進歩の度合や作付変動等を考慮し、実収量のすう勢をもとに作成したその年に予想される10a当たり収量をいいます。

- (4) 被害面積とは、農作物に損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合にとれ得ると見込まれる収量（被害なかりせば収量）から減収した面積をいいます。
- (5) 被害量とは、農作物の栽培が開始されてから収納されるまでの期間に、災害等によって損傷を生じ、その被害が発生しなかったと仮定した場合にとれ得ると見込まれる収量（被害なかりせば収量）より減収した量をいいます。

【統計表の見方】

- 1 統計数値については、下記の方法によって四捨五入しており、合計と内訳の計が一致しないことがあります。

原 数		7けた以上 (100万)	6けた (10万)	5けた (万)	4けた (1 000)	3けた以下 (100)
四捨五入するけた数 (下から)		3けた	2けた		1けた	四捨五入しない
例	四捨五入する前	1 234 567	123 456	12 345	1 234	123
	四捨五入した数値	1 235 000	123 500	12 300	1 230	123

- 2 表中の「 」は、減少したものを示します。

【関連リンク】

九州各県

九州農政局ホームページ>統計情報 各種統計>最新データ 面積・収穫量

http://www.maff.go.jp/kyusyu/toukei/ht_menseki_kyushu.html

全国

農林水産省ホームページ>統計情報 各種統計>最新データ 面積・生産量、家畜の頭数

<http://www.maff.go.jp/www/info/bunrui/bun02.html>

米に関する累年データ

農林水産省ホームページ>統計情報・各種統計>

年次別・累年データ 農林水産統計情報総合データベース からご利用いただけます。

<http://www.tdb.maff.go.jp/toukei/toukei>

問い合わせ先

本統計調査結果について

連絡先：九州農政局大分農政事務所 統計部

生産流通消費統計課 生産統計係

TEL 097-532-6178 FAX 097-538-1820

農林水産統計全般について

連絡先：九州農政局大分農政事務所 統計部

統計企画課 企画・分析係

TEL 097-532-6177 FAX 097-538-1820